

単元名 (書写)行書で書いてみよう

配当時間 9時間

単元の目標 (1) 行書の特徴を知り、点画の変化と筆脈の連続について理解することができる。
(3) 初めて学習する行書について、その特徴や筆使いについて正しく知ろうとする。

標準的な展開例

10210222_001

【教材名】「和」「大」「大木」「栄光」「平和」 (P. 40～P. 54)

【準備等】水書板、行書で書かれた身近な資料、毛筆のための練習用紙、筆ペンなどの筆記用具、年賀(郵便)はがき

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 身近な文字に行書が使われていることを知り、行書の書き幅があることを理解し、興味をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○点画が連続したり省略されたりした書体を、行書ということを知る。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★身の回りに使われている行書を知り、書き方の幅を知ろう。 ○持ち寄った資料から行書を確認し、その印象や特徴について話し合う。 ○身近な文字の中に、様々な行書が使われていることを知り、行書を書くことに興味をもつ。 ○単元の学習の見通しをもつ。 <p>2 楷書と行書の違いから、行書の点画の特徴などを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★楷書と行書の違いを理解しよう。 ○「和」の楷書と行書を比べて、全体の印象の違いを考える。 ○教科書(p. 42～p. 43)の「楷書と行書の比較表」を見ながら、「和」のどの部分に点画の変化が表れているかを考え、話し合う。 ○「楷書と行書の比較表」を使い、違いを整理して理解する。 ○次時の予告を聞く。 <p>3 行書の筆使いを理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○行書の特徴と取り組み方を確認する。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★行書の筆使いを理解して書こう。 ○手または、墨をつけない筆で、空書きや机上で筆使いを確かめる。 ○「大」を、教科書(p. 45)を参照しながら、半紙に行書で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書(p. 38～p. 39)の「文字の変遷」(適時)を見て、書体の変遷から行書の位置を確認させるとつかませやすい。 ・教科書(p. 40～p. 41)の図版を見た後、持ち寄った資料から行書を確認することで、点画が連続、省略される行書の全体的な柔らかさをつかませたい。 ・校内、校外において行書が使われている資料を用意し、興味を喚起させる。 【評】身近に行書が使われていることを理解する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・教科書(p. 42～p. 54)に目を通させ、次時以降は行書の特徴、行書の書き方について学習していくことを伝える。 ・本時に学習する「和」は、第7時に毛筆で、「平和」と行書で書く学習につなげる。 ・楷書は直線的で角ばっている、行書は曲線的で丸みがあり柔らかい特徴をつかませる。 ・教科書(p. 42～p. 43)を使い、形が変化している行書の部分に○をつけさせる。 ・違いに気付きにくい場合は、「楷書と行書の比較表」をよく見るように指示する。 【評】楷書と行書の違い、行書の点画の特徴を採る活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・筆順の変化については、「和」では表れないので、他の例として「書」や「花」などを取り上げるとよい。 ・次時は毛筆で行書の「大」を書くことを伝える。 ・本時に学習する「大」は、次時の「大木」と行書で書く学習につなげる。 ・前時までの復習として、全体の曲線的で丸みがある柔らかい印象や、楷書との比較を確かめるさせ、教科書(p. 44)にあるように「初めはゆっくり、心をこめて柔らかく丁寧に」、学習が進むと「速く、美しく」書くことを意識させる。 ・教科書(p. 44)を使って、指先をそろえて左上に向けて、書き始めるようにさせる。 ・結びの筆使いに似ていることを理解させ、軸を回さないで書くように指示する。 ・下から上に書いていくときに、穂先が下を向くことを理解させる。 ・穂先で立つて、次の画に向かうようにはねることがあることを知らせる。 ・始筆から送筆への動きも滑らかに筆を動かし点画の変化を理解させて書かせる。 ・横画の終筆ははねて二画めへ、左払いの終筆は三画めへ向かわせる。 ・三画め右払いを止めに変化させて、次の文字へはねさせる。

- 振り返りを行い、次時の予告を聞く。
- 4 点画の連続と形の変化を理解して書く。
- 点画の連続と形の変化について確認する。
 - 「大木」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。
- ★点画の連続と形の変化を理解して書こう。
- 楷書と比べて点画の形が変化している部分、筆脈の連続が表れている部分について考え、自己課題を設定する。
-
- 「大木」を、練習用紙や半紙に練習して、批正する。
 - 毛筆でまとめ書きをする。
 - 教科書(p. 47)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。
- 5 点画の連続と変化を理解して書く。
-
- 教科書(p. 46～p. 47)を使い、前時に点画の連続と形の変化を学習したことを想起する。
 - 「栄光」を硬筆を使って試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。
- ★点画の連続と変化を理解して書こう。
- 示範や教科書の考えよう(p. 51)を参照し、点画が連続している部分、楷書と比較して点画が変化している部分について考え、自己課題を設定する。
-
- 「栄光」を、毛筆で練習用紙や半紙に練習して、批正する。
 - 毛筆でまとめ書きをする。
- 6 点画の連続と変化を理解して、字形を整えて書く。
- 前時に、点画の連続と形の変化について学習したことを想起する。
 - 本時の学習課題をつかむ。
- ★点画の連続と変化を理解して、字形を整えて書こう。
- 前時の作品「栄光」を、示範や教科書の文字(p. 48)と比べ、中心や外形、点画の方向の基準を考え、発表する。

- 【評】点画の連続と変化を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教科書(p. 45)に気付いたことを記入させ、本時の学習が、次時の「大木」に生かされることを知らせる。
 - ・教科書(p. 46～p. 47)を参照させる。教科書(p. 42～p. 43)の比較表を参照させるのもよい。
 - ・楷書と行書の違いを意識させながら硬筆で取り組ませることによって、学習課題への意欲を高めさせる。
 - ・点画の形の変化や筆脈の表し方は、以下のとおりである。教科書の文字や示範を見て、気付くように促す。
 - ①点画の変化
「大」左払いと右払いの始筆に向かうように払わせる。
 - ②筆脈の連続
「木」横画は縦画に向かうように小さくはねて連続させる。
縦画から左払いへ向かつてはねさせる。
左払いは右払いへ向かうように終筆が変化し、右払いの終筆は止めさせる。
- 【評】点画の連続と形の変化を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・「生かそう」(p. 47)の欄を用いて、点画の連続と形の変化を意識させて、硬筆で書かせる巻末の行書表を参考にするとよい。
 - ・本展開例では、この「栄光」を2時間、次の「平和」を1時間で取り組む計画を立案したが、生徒の実態に合わせて、「栄光」を1時間、次の「平和」を2時間で計画するなど、単元内で実態に応じて弾力的に計画したい。
 - ・楷書と行書の筆使いの違いを確認させる。教科書(p. 42～p. 43)の比較表を参照させるのもよい。
 - ・水書板等を用い示範して、より具体的につかませたい筆使いは、以下のとおりである。
 - ①点画の連続
「栄」二、三画めは、点からの連続を、四画めと五画めは縦画を書いて止まり、戻るようにして横画を書く。
「光」四画めは、横画を書いて、折り返して払う。
 - ②点画の変化
「栄」八、九画めは、払いを点に変える。
 - ・作品の相互評価や筆使いの相互観察の時間を設け、自他の客観的な批正を行う時間を設けるとよい。
- 【評】点画の連続と変化について書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・水書板等を用い示範することで、筆使いについてより具体的につかませたいことは、以下のとおりである。
 - ①文字の中心
「栄」二、七画めを通る。
「光」一画めを通る。
 - ②点画の方向
「光」とりわけ四画めは右に上がる。左払いと曲がりやをゆったり書く。
 - ③外形
「栄」正方形、「光」三角形
 - ④点画の連続
「栄」並んだ三つの点画では、二、三画め

- 自己課題を設定する。
- 「栄光」を練習用紙や半紙を使い、毛筆で練習して、批評する。
- 毛筆で、まとめ書きをする。

- 教科書(p. 49)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。

- 7 点画の連続と省略を理解して、字形を整えて書く。
- 前時に学習した点画の連続と、点画の変化を想起する。

- 「平和」を硬筆で試し書きをして、本時の学習課題をつかむ。

- ★点画の連続と省略を理解して、字形を整えて書こう。
- 示範や教科書(p. 51)「考えよう」を参照し、点画が連続している部分、省略されている部分について考える。

- 中心や外形、点画の方向の基準も考え、自己課題を設定する。

- 「平和」を毛筆で、練習用紙や半紙に練習して批評する
- 毛筆で、清書する。

- 教科書(p. 51)を使い、硬筆でまとめ書きをし、振り返りを行う。

- 8 これまでに学習してきた行書の特徴を理解して書く。

- これまでに学習してきた行書の特徴を確認する。
- 本時の学習課題をつかむ。
- ★これまでに学習してきた行書の特徴を振り返ろう。

- 教科書(p. 52)の教材例を見ながら基準を理解して、課題を設定する。

- 硬筆で教材を練習し、基準と比較して自己批評する。

- 9 行の中心や文字の大きさを理解して書く。

- 日常生活や学校生活における、丁寧に字を書く場面を想起する。
- 本時の学習課題をつかむ。
- ★行の中心や文字の大きさを理解して、行書で年賀状を書こう。
- 年賀状の基本的な形式について確認し、基準の中から自

を連続して書く。

【評】点画の連続と変化を理解し、字形を整えて書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・「生かそう」(p. 49)の欄を用いて、点からの連続、横画からの連続を意識させて書かせる

- ・巻末の行書表を参考にさせるとよい。

- ・教科書(p. 50～p. 51)を参照させる。
- ・楷書と行書の筆使いの違いについて、確認をする。
- ・教科書(p. 42～p. 43)の比較表を参照させるとよい。

- ・水書板等を用い、筆使いについて示範することで、より具体的につかませたいことは、以下のとおりである。

- ①点画の連続を理解して書く。
「平」三、四画め→払いから横画に連続させる。

- 「和」六、七画め→折れを書き、折り返して横画を書く。

- ②点画の省略を理解して書く。
「和」四画め→「のぎへん」の点を省略させる。

- 左払いを止めて、「つくり」に向けて右上に払う。

- ・指導の基準は、以下のとおりである。

- ①文字の中心
「平」五画めを通る。
「和」一画め始筆、二画め終筆を通る。

- ②外形
「平」正方形、「和」やや横長の長方形

- ③点画の変化
「のぎへん」の縦画の止めを「はね」に変化させる。

【評】点画の連続と省略の仕方を理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・「生かそう」(p. 51)の欄を用いて、払い、点から横画への連続、点画の省略を意識させて書かせる。

- ・巻末の行書表を参考にさせるとよい。

- ・確認したい行書の特徴は、①全体の印象と②点画の特徴(形の変化、連続、省略)として整理する。

- ・行書の特徴を組み立てに生かしたい基準は、以下のとおりである。

- ①左右(へん)は、「つくり」に向かって、終筆の止めを「はね」に変化させる。「木へん」の点を省略する。

- ②左右(つくり)は、払いを止めに变化させる。左払いや横画から連続させる。

- ③上下・内外(かんむり、あし、にょう)は縦画からの連続、点から連続させる。

- ・「振り返ろう」(p. 53)に記入させる。

【評】これまでに学習してきた行書の特徴を理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・本単元の教材が、日常生活に根ざした伝統的な書写活動の体験であることを伝える。

- ・寒中見舞いも選択できるようにする。

- ・教科書(p. 41)を参考にさせる。基準の中でも

己課題を設定する。

- 課題に適した練習用紙を選択して練習し、批正する。
- 年賀状(寒中見舞い)を書く。

「表書きでの文字の大小」「配列」に注目するように助言する。

- ・表書きを中心に行書で書くように伝える。行書に調和する仮名は、未習の段階であるため発展的な学習とする。

【評】行の中心や文字の大きさを理解して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

生徒は初めて行書を書くことを学習する。したがって、楷書と行書の違いや、行書の特徴などを把握させることから始める必要がある。それらの①曲線化②変化③連続④省略⑤筆順の変化といった行書の特徴の中でも活用度や使用頻度の高い順に、また、楷書に近い平易な行書から、進んだ書き方へといった系統的な学習の流れを意図した構成をとっている。そして、行書は、速書きに適した実用性の高い書体であり、日常書写における活用が期待される。そのため、毛筆で行書の特徴を把握した後、硬筆へと展開して生活に生かしていける構成をとっている。

暮らしの文字を支える人々 教科書(p.54)(適時)

補助教材集 行書「名作」「理想」 教科書(p.142)